

愛媛教職員組合(JTU えひめ)

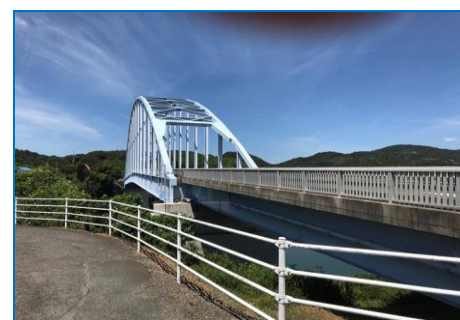
2018年10月1日発行
(えひめ夏物語版)

愛媛教職員組合研修会 「えひめ夏物語」

2018年8月18日(土)、国立療養所“長島愛生園”(岡山県)現地研修会(歴史館見学・フィールドワーク)で学習を深めました。

幅30mの海に架かる^{おく}長島大橋でつながれた島には、邑久光明園と長島愛生園の2つの国立療養所がある。愛生園の出発は1931年3月27日、^{たま}多磨全生園(東京都)81人を中心とする「開拓患者」が島に上陸し、光田健輔園長の経営方針を信頼して、希望に満ちて建設された療養所だったが、生活条件が悪くなると激しく改善闘争が行われた。

逃亡者に対する監禁室(監房)が拡大するなど、管理が厳しくなり他の療養所と同等の人権無視が行われた。



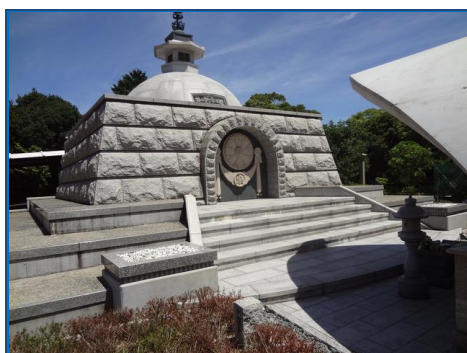
邑久長島大橋
(人間回復の橋とも呼ばれている。)

園には、1987年まで小中学校から邑久高校があり、野球部までであった。33年間に307人が卒業し、225人が社会復帰を果たした。



愛生歴史館の前

橋ができる前は、船で収容され、収容所(回春寮)で現金(逃亡予防)などの禁止物品を取り上げられ、クレゾール液で満たされた消毒風呂の入浴を強制され、この建物の中で社会から隔離されたとの意識を持った患者が多かった。



納骨堂

ガイドさんの話“抜粋”

納骨堂になります。ここで少しみなさんにお考え頂きたいのは、そもそもなぜここに納骨堂が必要なのかということ。ここは療養所です。病院です。病院にはお墓はないはず。この療養所で亡くなった場合、ご遺族のもとにお知らせが届きます。ハンセン病の差別は発症したら本人だけではないのです。家族を巻き込みます。差別の法医学的な理由はありません。昔からの間違っただけの言い伝えです。そういう状況でご家族が遺骨をとりに来られるのかというと、難しい。どうしても周囲の目が気になって遺骨の引き取りは進まなかった。この時、ご遺族が気にしたのは私たち。我々の目を気にした。たくさんの遺骨が残されました。そういう方をほっといてはいけません。と納骨堂が作られました。最初の納骨堂は1934年。今の

ものは2002年に建てられた新しい納骨堂です。現在この納骨堂には、3667名の方が眠っています。そういった方の半数はいまだ園内でも偽名です。亡くなってもなお、今、園内にいる人も本名を名乗れません。自分が本名を名乗ることで名前から家族に迷惑をかけてはいけません。と心配する方が今でも多くいらっしゃいます。

みなさんに協力していただきたいことを2つ申し上げます。まず1つめ。これは現在入所している方とご家族のためのお願ひ。現在入所されている方、何度も言いますが、ハンセン病の後遺症をもった障害者です。別に変った人ではない。特別な目を持たずに接して頂きたい。まだハンセン病自体に誤解を持っている人がたくさんいるので、周りにいたら今度はみなさんから教えていただきたい。もう1つお願ひがあります。今後同じような差別に苦しむ人たちを新たにつくらないでほしい。ということです。残念ながら偏見や差別の問題はハンセン病だけではなく、我々の周りにたくさんあります。このハンセン病は長い間誤解を受けていました。そこに国の政策の誤りがあったことも事実です。しかし、今日お話を聞いてくださった皆様方は、ハンセン病については、ご理解頂いたと思います。今後、皆様が愛生園入所者の方を差別することはないと思います。正しく理解することで誤解や偏見、そこから生まれる差別は未然に防ぐことができるわけです。これと同じことが他の問題でも言えると思います。

例えばエイズの問題。同じような差別の行動があります。インフルエンザ。どうだったでしょうか。感染症に限りません。精神障害者の問題。福島原発事故。避難者された方々への差別もニュースになりました。それぞれ原因・背景は違うのですが、私たちは何度も同じような過ちをくり返しています。では偏見や差別がない社会、人権が尊重される社会をつくるため、私たちに何ができるか。正しい理解を得る。これがいかに大事かということです。その正しい理解を得るために必要なもの。これが関心なのです。いくら新聞にいいこと書いていても、読まれないと情報は入ってこない。これはハンセン病だけでなく、いろんな差別の問題・人権の課題にあります。そういう方々にも関心の輪を広げて頂きたい。正しい理解を深めて頂きたい。今日の研修が、そのきっかけになったらと思います。

《参加者感想》

- ◆ 私も偏見に基づく差別の恐ろしさをひしひしと感じましたし、それが社会や国家によって放置され推進されたことに改めて憤りを覚えました。しかしこの同時代を生きてきたという意味において、私たちもまた少なからず加害者の一員であったのかもしれないということに思いを致すなら、あらゆる偏見や差別は過去のものではなく、現在のものであるということが立ち登ってきますし、そのように生き方を問われながら生きていく他ないのだろうと思います。
- ◆ ハンセン病に関しては、学校によっては授業で取り扱ったり、職員研修で現地に行ったりすることはありますが、普段なかなか話題にのぼりません。学校などで、自分の見たこと、感じたことを伝えたいと思います。本当のことを知らないことの怖さ、他の差別問題と共通していることなど真実は一つのはずですが、それがねじ曲げられたりして、間違った伝わり方、受け止める側の意識の低さなどで問題が大きくなってしまふことの怖さと、それを覆すのに時間や労力がかかることを痛感しながら振り返っているところです。

子どもたちと教職員の生活を守るため、共に考えましょう!

私たち愛媛教職員組合は、年に数回、研修会（研究会）交流会を開催し現場での力量を高めています。ぜひ、ご参加いただき共に学びましょう。

質問や感想がございましたら、お気軽にご連絡ください。

TEL(089)924-4546 / FAX(089)924-4403 / e-mail jtuehime@lime.ocn.ne.jp

HP <http://jtuehime.sakura.ne.jp/>

愛媛教職員組合 書記長 堤 剛

